

目次

1. 2016年度第7回マイクロ化学プロセス分科会主催講演会「マイクロ化学プロセスを多方面から俯瞰する」のご案内
(協賛:一般社団法人近畿化学協会, 日本プロセス化学会, 京都大学マイクロ化学生産研究コンソーシアム)
2. 化学工学会秋季大会分科会主催シンポジウムの状況
3. その他のご連絡(分科会主催行事や学会カレンダーなど)
編集後記

1. 2016年度第7回マイクロ化学プロセス分科会主催講演会のご案内

マイクロ化学プロセス分科会では「マイクロ化学プロセスを多方面から俯瞰する」と題して2016年度マイクロ化学プロセス分科会講演会は一般社団法人近畿化学協会, 日本プロセス化学会, 京都大学マイクロ化学生産研究コンソーシアムより協賛を頂き、11月25日(金曜日)に定員45名でダイキン工業株式会社の淀川製作所テクノロジー・イノベーションセンター内の会議室をお借りして以下の内容で行わせて頂きます。どうか奮ってご参加下さい。

開催日時場所:

2016年11月25日 13時30分 開場 ~ 17時30分

ダイキン工業株式会社の淀川製作所テクノロジー・イノベーションセンター(大阪府摂津市内)

主な講演及びスケジュール: (往復路の交通アクセスは末尾の情報をご参照下さい)

14時00分 開会の挨拶 ダイキン工業株式会社 テクノロジー・イノベーションセンター技師長
兼 化学事業部 プロセス技術部長 徳野 敏

講演 1: 14時10分~(質疑応答を含め45分)

タイトル 強力かつ迅速なカルボン酸の活性化を基盤とするマイクロフローペプチド合成法の開発
講 師 東京工業大学 科学技術創成研究院 化学生命科学研究所
准教授 布施 新一郎 先生

講演 2: 15時00分~(質疑応答を含め45分)

タイトル 電子線アシスト型マイクロリアクターによる有用物質の製造
~ラジカル反応における触媒利用の可能性~
講 師 島根県産業技術センター 研究調整監 環境技術科長 兼任
田島 政弘 先生

(~ 休息 ~)

見学: ダイキン工業株式会社淀川製作所内テクノロジー・イノベーションセンター内
(2班に分かれて15時55分~ 30分程度)

(御願)淀川製作所は生産工場であり、見学に先だって幾つかの御願があります。

- ✓ 地震などの際は案内の係員の指示に必ず従って下さい。
- ✓ 製作所内全域における写真撮影などは事前に許可がない限り、固くお断りします。
- ✓ 見学エリアへの立ち入りは長袖,長ズボン及び革靴または運動靴で御願します。
- ✓ 設備,展示品等には係員の許可がない限り、お手を触れないように御願致します。
- ✓ 見学エリアや講演会を行う会議室は全面禁煙とさせていただきます。
- ✓ 特に見学エリア内にライター始め一切の喫煙具などの持ち込みは禁止致します。
- ✓ 見学の際には最小限の貴重品のみをお持ち頂き、見学を御願致します。
- ✓ 見学の際には携帯電話・スマートフォン類は電源をお切り下さい。
- ✓ その他不明の事がありましたら、事前に案内の係員にご相談下さい。

講演 3: 16時30分～(質疑応答を含め45分)

タイトル 不斉水素化反応へのマイクロリアクターの適用

講師 高砂香料工業株式会社 先端領域創成研究所 プロセス開発部
磐田開発室 山本 哲也 先生

(分科会事務局連絡)

17時30分 閉会の挨拶 マイクロ化学プロセス分科会 代表幹事 櫻井誠

懇親会 17時45分～19時45分頃まで

講演会,懇親会参加費・支払い方法

講演会参加費	学 生	3,000 円
	会 員(協賛団体会員)	8,000 円
	会員外	13,000 円
懇親会参加費	学 生	2,000 円
	学生以外	5,000 円

支払い方法は講演会参加費を懇親会も含めて参加御希望の皆様は合計金額を銀行振り込みまたは当日現金支払いで御願致します。なお当日現金支払いの際はお手数ですがお釣りのないようにご準備頂ければ幸いです。また銀行振り込みの方法の詳細は参加申し込み確認のメールにてご案内させていただきます。振り込みの期限はお守り頂く様に御願致します。

尚領収書は当日に「講習会参加費」として、また懇親会参加の方は「懇親会参加費」の2枚を御所属組織名+部署名そして申し込み者の御名前を宛先として分科会代表幹事名でお渡しさせていただきます。

お申し込み方法

講演会と懇親会の参加の希望は Email:mrt-shomu@cheme.kyoto-u.ac.jp 宛にタイトルには「参加申し込み_分科会講演会(御名前_御所属)」として本文には

【御名前】 記入例; 太田俊彦(オオタトシヒコ)

【性別】 男性 または 女性 (何れか一つ)

【分類】 学生, 会員及び協賛団体会員, 会員外 (何れか一つ)

【所属】 XXX 社(株)

【所属部門名及び職位】 愛知 XXXXX

【連絡先住所】 愛知県知多郡 XX

【電話】 0569-XX-XXXX (090-xxx-xxx)

(出来る限り当日連絡を取れる携帯電話番号も含め登録を御願ひします)

【連絡用 Email アドレス】 tooota@XXX.xxxxx.xxx.jp

(こちらも可能ならば当日連絡を取れるアドレスも含め登録を御願ひします)

【参加費の支払い方法】 銀行振り込み または 当日支払い (何れか一つ)

【懇親会の参加】 希望する または 希望しない (何れか一つ)

【その他分科会や今回の討論交流会への希望など】

それぞれ明記の上お申し込みを御願ひ致します(こちらをコピーして御使ひ下さい)。

申し込みの期限は 11 月 20 日までとさせていただきますが満席(45 名)となった時点で参加申し込みを中止させていただきます。

皆様の所属や部署の情報は定員をオーバーした際に参加者の調整を御願ひする目的で参加受付の際に伺わせて頂いております。またこちらで頂いた御所属などの情報は個人を完全に特定できない情報(メールアドレスや連絡先住所などは公表しません)として名簿として参加者に配布させていただきます、空き時間も活発な交流や情報交換が出来る様にする目的でお聞かせ頂いております。

ここで頂いた個人情報分科会の個人情報保護に関するポリシーに則り、厳重に取り扱わせて頂きます。

最後に内容の確認や照会などのお問い合わせも Email:mrt-shomu@cheme.kyoto-u.ac.jp 宛までタイトルには「内容確認_分科会討論交流会(御名前_御所属)」にて御願ひ致します。

参考情報

ダイキン工業株式会社淀川製作所へのアクセスは阪急バス 31 系統「ダイキン工業前」が最寄りのバス停となります。

(参考 URL: <http://www.daikin.co.jp/company/kyoten/popup/jp/base01/08.html>)

往路:関東・九州方面より新幹線乗り換えで新大阪経由、神戸・京都方面からお見えの場合

JR 京都線吹田駅中央出口バスターミナル 3 番乗り場より阪急バスが便利です。

当日は 13 時 10 分発 31 系統「摂津ふれあいの里」行きにご乗車下さい。

尚 JR 吹田駅周辺は飲食店が少ないので京都または新大阪周辺で昼食後にお見え頂ければ幸いです。またバスの停留所は「ダイキン工業前」ですが時間帯によっては西門の停留所に到着する場合があります。西門の地図を参考に(徒歩 5 分程度です)正門に御回り下さい。

往路:大阪空港経由で大阪モノレールを使用して南摂津駅を経由してお見えの場合

大阪空港から南摂津まで所要時間は約 30 分です。

大阪モノレール南摂津駅ロータリー側阪急バス乗り場より阪急バスが便利です。

当日は 13 時 24 分発 31 系統「JR 吹田駅」行きにご乗車下さい。

尚 JR 吹田駅周辺は飲食店が少ないので京都または新大阪周辺で昼食後にお見え頂ければ幸いです。またバスの停留所は「ダイキン工業前」ですが時間帯によっては西門の停留所に到着する場合があります。西門の地図を参考に(徒歩 5 分程度です)正門に御回り下さい。

復路:新幹線経由や神戸・京都方面へお帰りの場合

阪急バス JR 吹田駅行き「ダイキン工業前」より 17 時 43 分,18 時 28 分,20 時 06 分発があります。

復路:大阪空港経由でお帰りの場合

阪急バス南摂津方面行き「ダイキン工業前」より 18 時 19 分,19 時 57 分発があります。

2.化学工学会秋季大会分科会主催シンポジウムの状況

今年 9 月 6~8 日に徳島大学常三島キャンパスで化学工学会の第 48 回秋季大会が開催され、それに

併せて分科会主催のシンポジウム(SY-67 反応工学部会シンポジウム(3)マイクロ化学プロセス技術の新展開)を9月7~8日に行いました。

翌週にマイクロ化学プロセス技術に関する国際会議(IMRET)が北京で開催されたためか発表件数こそやや少なめでしたが2件の招待講演を挟み8件の一般口頭発表があり、合計10件のどの講演で制限時間一杯までの活発な質疑応答が続けられていた事をご報告致します。

特に今回の招待講演は化学工学の常道である単位操作,反応工学の分野の枠組みにはあまり固執せず、マイクロ化学プロセスを使いこなして実績を上げられておられる東大院理化学の小林 修先生と東北大流体研の中村 寿先生に御願い致しました。

どちらも満席に近い聴講者がありました。この場をお借りして再度深く御礼を申し上げます。最後になりますが併せて口頭発表頂いた皆様は無論 オーガナイザーを勤めて頂いた徳島大学の外輪先生,日立製作所の浅野様そして座長を務められた皆様,聴講を頂いた皆様にも深く御礼を申し上げます。

有り難う御座いました。

3. その他のご連絡(分科会主催,協賛行事や学会カレンダーなど)

2016年

10月20日(木) 10:00~18:30 大阪科学技術センター7階
化学工学会関西支部 マイクロプロセス最前線シリーズ(分科会協賛行事)

11月11日(金) 東京都葛飾区 タワーホール船堀
日本プロセス化学会 2016 ウィンターシンポジウム

11月14日(月)~16日(水) 東京都葛飾区 タワーホール船堀
日本化学会主催 CSJ 化学フェスタ

11月25日(金)~26日(土) 富山県富山市 パレブラン高志会館
近畿化学協会 合成部会 フロー・マイクロ合成研究会 第72回研究会

2017年

1月27日(金) 大阪府大阪市 大阪科学技術センター
近畿化学協会 合成部会 フロー・マイクロ合成研究会 第73回研究会

3月6日(月)~8日(水) 東京都江東区豊洲 芝浦工業大学 豊洲キャンパス
化学工学会 第82年会(講演申し込み締め切り 2016年12月22日)

マイクロ化学プロセス分科会定例幹事会を化学工学会期間中に予定しております(幹事各位は予定を御願い致します)。

尚 10月20日大阪科学技術センター7階で開催される化学工学会関西支部主催のマイクロプロセス最前線シリーズはマイクロ化学プロセス分科会も協賛をさせて頂きました。主催団体の正会員と同じ参加費(20,000円)で参加する事が出来ます。

プログラムは

1. 講演および展示会(昼食付)(10:00~16:50)

1) 微粒子合成に関するチュートリアル~粒径分布制御からコアシェル複合化まで~(10:00~10:50)(京大院工) 渡邊 哲氏

- 2) 講演「コヒーレントフォトンテクノロジーによるイノベーション創出」(10:50~11:20)(東大院理フォトサイエンス研究機構) 湯本潤司氏 (展示あり)
 - 3) 展示企業ショートプレゼン (京セラ(株)、(株)神戸製鋼所、(株)タクミナ、マックエンジニアリング(株)) (11:20~11:45)
 - 4) 展示会 (昼食付) (11:45~13:00)
 - 5) 特別講演「フロー合成からコンパクトな次世代型化学製造プロセスへ」(13:10~14:10)(阪府大 21 世紀科学研究機構) 柳 日馨氏
 - 6) 講演「和歌山県工業技術センターでのマイクロリアクター開発の取組」(14:10~14:40)(和工技セ) 森 一氏
 - 7) 講演「マイクロミキサーを用いた汎用微細乳化プロセス」(14:50~15:15) (花王) 汲田 泰和氏
 - 8) 講演「強制薄膜式マイクロリアクターを用いたナノ粒子の作製からスケールアップまで」(15:15~15:40)(エム・テクニク) 本田大介氏
 - 9) 特別講演「マイクロ化学プロセスの社会実装のための課題と期待」(15:40~16:40)(京大院工) 前 一廣氏
2. 懇親会 (17:00~18:30) 地下 1 階 B102 号室 参加無料

となっております。詳しい案内が化学工学会関西支部より届いておりますので希望の方は庶務幹事までご一報頂ければ詳しい情報をお送りさせていただきます。

編集後記

徳島大学常三島キャンパスでの化学工学会第 48 回秋季大会にご参加有り難う御座いました。マイクロ化学プロセス分野を勉強の主体におかれている皆様は翌週に行われた IMRET にも参加で 9 月初旬は相当の忙しい日程だったかと思っております。化学工学会秋季大会、IMRET が行われた 9 月初旬は酷暑そして好天が続きましたが、下旬以降は台風そして長雨が続く日本列島となっております。どうか旅の疲れを持ち越さず、お躰には呉々もご自愛下さい。

本来ならば私も IMRET に参加するべきなのですが隔年で開催されているヨーロッパ化学連合主催の国際会議(EuChems2016)にスペインのセビリアで参加してきました。2013 年末を以て満了した第 7 次 EU フレームワーププログラム(FP7)から新しい EU の総括的なイノベーションの枠組みである Horizon 2020 に代わってからの最初の化学分野での大規模な国際会議でもあり、技術的な面白さ以外にも様々なポイントを直接見る事が出来ました。

特に事前に聞いていた Horizon 2020 プライオリティ(3)社会的課題への取り組みの中にやはり末尾ではありますが「包括的、イノベティブかつ内省的な社会の構築」、「安全な社会の構築」の文言が入っております。どうやらこれらポリシーの中で EU 内ではマイクロ化学プロセスとその関連技術を育成していくのではと思っております。実際の技術分野の講演プログラムを見ているとやはりマイクロ化学プロセスを前面に出した内容は少なく、様々な分野の中に既に普遍的に使われ始めた事が良く解りました。

マイクロ化学プロセス分科会としてもこの潮流に遅れる事なく、今回のシンポジウムで招待講演を御願した先生方のようにマイクロ化学プロセスを使いこなしておられる方と議論する事の大切さを感じております。

11 月の分科会主催の講演会もシンポジウム同様に単位操作、反応工学の分野の枠組みにはあまり固執せずにペプチド合成、電子線の活用そして企業での具体的な事例など幅広い分野の先生方に講演を御願しております。奮ってご参加下さい。11 月の講演会で御会いしましょう！(庶務幹事 太田)